

平成 26 年度厚生労働科学研究費補助金 がん対策推進総合研究事業（がん政策研究事業）
小児がん拠点病院を軸とした小児がん医療提供体制のあり方に関する研究（松本班）

分担研究報告書

大阪府立母子保健総合医療センターにおける病院内教育環境の調査

研究分担者 井上雅美

研究要旨

小児がん患者の動態調査は、小児がん医療提供体制をどのように構築すべきか立案・計画するために、基盤となるデータ・情報を収集するための重要な取り組みである。今回、大阪府立母子保健総合医療センターにおける院内がん登録症例を集計した。単一施設のデータではあるが、このような院内がん登録を悉皆的に行うことができれば、ひいては地域がん登録、国のがん登録に貢献できると考えられた。

A．研究目的

平成 26 年 1 月-12 月の期間において、大阪府立母子保健総合医療センターで新規に診断された小児がん症例を支障なく漏れなく正確に集計できるかどうかを検討する。

B．研究方法

平成 26 年 1 月-12 月の期間に大阪府立母子保健総合医療センターで新規に診断された小児がん症例を集計した。

すなわち、血液・腫瘍科、小児外科を含め、小児がん症例を診療する可能性のある診療科すべてに新規診断症例について診療情報管理室に報告させた。また、検査科病理が診断した小児がん症例のリストを診療情報管理室に提出させた。さらに、毎週開催される Cancer Board で検討した小児がん症例リストを診療

情報管理室に提出した。すべての症例データ（個人情報を含む）を診療情報管理室が検討し、重複症例がないように整理・集計した。すべての小児がん症例のうち、新規に診断された症例（再発例などを除外）のリストを作成した。

C．研究結果

造血器腫瘍 15 例、固形腫瘍 25 例、計 40 例が、平成 26 年 1 月-12 月の期間に新規に小児がんと診断された症例であった。診療情報管理室が中心的役割を担うことでデータを効率よく収集することができた。

D．考察

診療科からの報告だけでなく、Cancer Board、検査科病理のデータを併せて複合的にデータを収集することで、より正確な症例リ

ストを作成できた。

E. 結論

大阪府立母子保健総合医療センターにおいて、診療情報管理室が中心的役割を担うことで、新規に診断された小児がん症例の正確なリストを作成することが可能であった。

G. 研究発表

1. 論文発表 該当なし。
2. 学会発表 該当なし。

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む。）
該当なし。

表 がん・がん類縁疾患 新規診断症例数(平成26年)

小児がん学会分類	病名・組織型	症例数
造血器腫瘍		15
ALL	急性リンパ性白血病	6
AML	急性骨髄性白血病	3
MDS	骨髄異形成症候群	1
その他のリンパ増殖性疾患	EBウイルス関連リンパ増殖症	2
組織球症	ランゲルハンス細胞性組織球症	2
	若年性黄色肉芽腫	1
固形腫瘍		25
神経芽腫群腫瘍	神経芽腫	2
腎腫瘍	腎芽腫	3
肝腫瘍	肝芽腫	4
軟部腫瘍	悪性ラブドイド腫瘍	1
	横紋筋肉腫	2
胚細胞腫瘍(脳腫瘍を除く)	成熟奇形腫	4
	未分化胚種	1
脳・脊髄腫瘍	Glioneural Tumor, low grade	1
	髄芽腫	1
	非定型奇形腫様ラブドイド腫瘍(AT/RT)	1
	未熟奇形腫	2
	毛細胞性星細胞腫	1
その他	甲状腺癌	1
	充実性偽乳頭状腫瘍	1
計		40

※2014年に母子センターで初発腫瘍に対して初回治療を行った患者を集計した。

※小児血液・がん学会の分類にて集計した。